

—しそ—

しそ

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月 作型・病虫害名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春 ま き 露 地 春 ま き 露 地（おおば）			● は種 ● 定植	●		■ 収穫			☆ 電照	☆		
斑 点 病 さ び 病 ア ブ ラ ム シ 類 ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類 ハ ダ ニ 類												
夏 ま き 加 温（おおば養液栽培）					☆			☆	● ● ▲ ▲			
斑 点 病 さ び 病 ア ザ ミ ウ マ 類 ア ブ ラ ム シ 類 ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類 ハ ダ ニ 類												

斑点病

留意事項

- 1 気温20℃以上で多湿時に発生が多い。
- 2 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。また、QoI剤<<1 1>>、SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 キノンドー水和剤40、ダコニール1000は、水産動植物に強い影響を与える恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 初発生時に、下記の薬剤を株元散布する。
 - ・ [キノンドー水和剤40](#) <M 1> 【1000倍 前日／4回】
 - ・ [ダコニール1000](#) <M 5> 【株枯症 1000倍 前日／4回】
- 3 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <<1 1>> 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [アフェットフロアブル](#) <<7>> 【2000倍 3日／2回】
 - ・ [エコショット](#) <BM 2> 【2000倍 前日／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

さび病

留意事項

- 1 5～6月に発生が多い。
- 2 アミスター20フロアブルは、浸透性を高める展着剤を加用しない（薬害）。
- 3 QoI剤＜1 1＞は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) ＜1 1＞【2000倍 前日／2回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) ＜3＞【4000倍 21日／2回】
 - ・ [サンリット水和剤](#) ＜3＞【5000倍 前日／3回】

アザミウマ類

留意事項

- 1 スピノエース顆粒水和剤は、希釈倍数を間違えないよう注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) ＜3 A＞【4000倍 前日／2回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) ＜5＞【しそ科葉菜類 10000倍 3日／3回】

アブラムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) ＜4 A＞【3000倍 3日／2回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) ＜3 A＞【4000倍 前日／2回】
 - ・ [ウララDF](#) ＜2 9＞【4000倍 3日／2回】
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 ＜4 A＞【4000倍 3日／3回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) ＜3 A＞【4000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【2000倍 7日／2回】
- ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 7日／2回】
- ・ [カスケード乳剤](#) <15> 【しそ科葉菜類（除バジル） 4000倍 3日／2回】
- ・ [BT剤](#) <11A> （IX野菜類の病虫害防除3 参照）

ハダニ類

留意事項

- 1 ミヤコカブリダニ、または、チリカブリダニを利用する場合は発生初期に放飼する。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、ミヤコカブリダニ（スパイカルEX等）または、チリカブリダニ（スパイデックス等）を放飼する。
 - ・ [スパイカルEX](#) <ー(生)>
【野菜類 100～1250ml／10a（約2000～25000頭） 発生初期／ー】
 - ・ [スパイデックス](#) <ー(生)>
【野菜類（施設栽培） 100～300ml／10a（約2000～6000頭） 発生初期／ー】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【2000倍 7日／2回】
 - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [スターマイトフロアブル](#) <25A> 【2000倍 3日／1回】
 - ・ [マイトコーネフロアブル](#) <20D>
【しそ科葉菜類（除えごま（葉）） 1500倍 3日／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。